

カナダの金融市場動向 Weekly Report

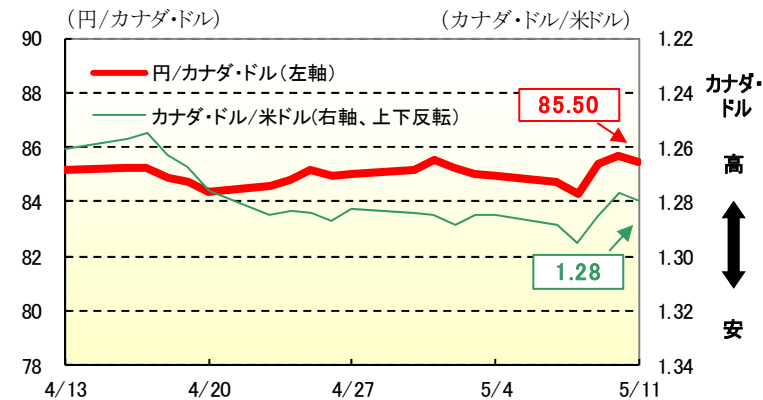
【2018年5月5日～2018年5月11日の推移】

【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドル円やカナダ5年国債利回りは上昇しました。

先週は、米国金利が上昇したことや原油価格が堅調に推移したことなどを受け、カナダ金利やカナダ・ドルは上昇しました。一方、カナダの雇用統計が発表され、雇用者数が予想外に減少したことなどが金利低下圧力となりました。ただし、これはパートタイム雇用の減少がフルタイム雇用の増加を打ち消したため、失業率は依然として低水準を維持していることや、賃金の上昇も続いていることから、労働市場は堅調さを保っているとみています。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2018年4月13日～2018年5月11日)



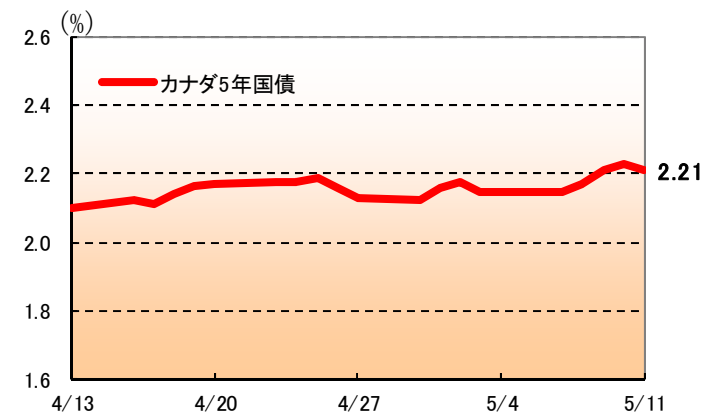
※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

【2】今週の見通し

今週、カナダでは小売売上高やCPI(消費者物価指数)、米国では小売売上高の発表があります。カナダや米国の経済指標が堅調な結果となり、市場の利上げ期待を高めることとなれば、カナダの金利やカナダ・ドルの上昇圧力になるとみています。

また、NAFTA(北米自由貿易協定)再交渉について、先週、米国、カナダ、メキシコの3カ国の閣僚による会合が行われましたが、合意に至ることはできませんでした。5月17日までに米国議会にNAFTAの修正案が示されなければ、新協定の発効に必要な議会承認を年内に得ることが難しくなるといわれており、今週中に何らかの進展があるか注目されます。

【カナダ 金利推移】 (2018年4月13日～2018年5月11日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>